

# 学園ニュース

富山大学

NO.75

編集 学園ニュース編集委員会 発行 富山大学学生部

平成4年2月20日



↑↑↑↑↑↑↑ 目 次 ↑↑↑↑↑↑↑

卒業生へのはなむけの言葉	各学部長	2
退官にあたって		8
新任教官紹介及び挨拶		15
在外研究報告 「中世都市モネンヴァシア訪問記」	人文学部講師 根津 由喜夫	17
特定研究報告 「ハイパーメディアを用いた情報教育用教材の開発に関する研究」	教育学部助教授 山西 潤一	19
大学祭について	学生部長 増田 信彦	20
留学感想	外国人留学生(大学院工学研究科) 任 春力	21
学会報告 「第1回リスク・マネジメント富山国際会議 (TRMC) を主催して」	経済学部教授 武井 勲	22
図書館だより		24
学生部だより		25
保健管理センターだより		27

# 卒業生へのはなむけの言葉

今年も各学部長から、卒業、修了生に社会へスタートするに当たってはなむけの言葉を執筆していただきました。

## 惜 別 の 辞

人文学部長 ひら 平 た 田 あつし 純



A君、いよいよ卒業だね、おめでとう。四年間の総決算とも言うべき、卒業論文にも、いかにも君らしく頑張ったね。着想、論旨と論証の展開など、諸々の面で予想していたよりもずっと完成度の高い論文だった。

きっと、これを書き上げるための努力と苦勞が君にとって終生忘れられない体験の一つとなるだろうと思う。本当によかったと思う。

これまで、まだ君にはっきりと尋ねたことは無かったけれど、多分幼稚園に始まって、小学校、中学校、高等学校、そして大学と、同じような年齢の人達と一緒に、よく学び、よく遊んで、十七、八年位を過ごしてきたのだろう。だが、これから君が入ろうとする現実世界は、もちろん同僚として同年令の人は居るだろうが、君よりもっと年上の先輩たちがはるかに多い世界だ。年だけじゃない、経験も、知識も、知恵も、全ての点で君を遥かに上回る人達がわんさと居る所だ。そこでは、これまで学校で修得して来た「学識」がストレートに、そのままの形で通用するとは限らない。むしろ、応用的運用能力がはるかに要求されるだろう。

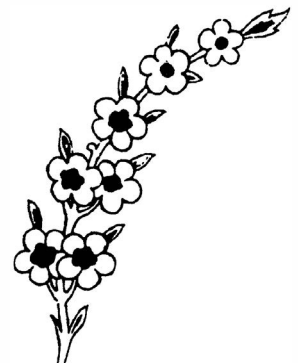
学校での学習は基本形を徹底的に自分のものにするものであったのだが、いわゆる世間では基本形よりは応用の形で、問題提起のなされることの方が多からだ。実験室での水は百度で沸騰してくれるのだが、現実の水は何度で沸騰するのだろ

うか？水の成分とか気圧、燃料など、いつも変わりうる異なる要因を考慮して計算せねばならない。ある意味からすれば、これまでの研究対象はいわば繰り返し実験できるものだった。ある人はこの観察と実験を、「自然は耳を澄ますと、秘密を語ってくれている、問いただすと、答えてくれる」という風に表現している。研究対象はある意味からすれば、繰り返しての実験に耐えうるもの（人間以外の、または生身の人間でないもの）であった。だが、これから君が主として心を用いることになるには、人間関係、仲間としての、または競争相手としての人とのつながり関係である。人間だけが伝達のために言葉を持っている。だが、言葉は真実を伝えもするが、同時に偽りにも真実らしい仮面を装わせることが出来る。その意味で危険な両刃の剣である。いや、言葉が悪いのではない。言葉を扱う人が問題なのだ。人は、善意の無知から、全くの悪意から、こちらを惑わすような言辭を弄することがあるということを、心にとどめておいて欲しい。いや、「人を見たら泥棒と思え」という諺の隣に、「渡る世間に鬼は無し」というのがるように、付け込んで利用しようとする人もいるし、助けようとしてくれる人もいる。この二つの諺は全くその通り、半面の真実を伝えているのだと思う。これまで君が過ごしてきた学校では人は友であることが多かったのではないか。（学校のいじめや、児童の登校拒否のことなどよく聞くが、君がそれだったとは思われない。）学校という原則で動く筈の場所では、友達集団であって、敵対者集団でなかったろう。だから、ここで人は友である（その典型が友達の友達はみな友達

だ、という楽天的楽観論)と人類愛・人間愛が高らかに讃えられる一方で、人間が同類の人間同士を傷つけ合い、殺し合っているという現実を直視しなければならない。話が妙なところへ行ったが、要するに、これまで君がいた学校での多分に抽象的・理論的・観念的な学問ではなくて、具体的で、実際的で、現実的な実働と実践の世界で生活せねばならないのだから、君は両者のギャップに大きな戸惑いを覚えるだろう(初めてイギリスへ旅行に行った男が、駅で初めて生きたイギリス人と話したが、そのポーターの言うことが全く分からなかった。男は困り果てて言う、「ポーターは私が学校で先生から教わったのとは違った英語を話している。イギリスでは英語を教えているのだろうか?」そんなジョークを読んだことがある。学校と実世界との間隙を物語るものとして、面白い話だ。)が、全てにおいて、事の本質を見つめて、正攻法で立ち向かって行くのが最も大切なことであり、そして、その際には、いろいろ伝わって来る情報の正しさを確認して、不正確な情報で自分の判断が狂わされたりすることのない様に、情報(及び、その情報の提供者)の信憑性をよく見極めてかかることが肝心だと言いたかったのだ。全く老婆心から、脱線してあらずもがなのことを述べたようだがお許しあれ。(「年はとりたくないもの」とは中村光夫氏の名文句だった。)年をとるとつい言わでものこを口にしてしまうようだ。英語にもanecdoteという語がある。「ぎゃあぎゃあうるさい年寄り」という意味だが、これは

anecdote「逸話」という語とdotage「耄碌」という二つの語を結び合わせた「鞆語」といわれるもの。老いたるものの生理的現象だと思って、勘弁していただきたい。

いよいよ君が卒業して一人の社会人として出発するんだと思うと、君が学部に進学してからの僅か二年半の知合いでしかないのに、いろんな思い出やら何やらで感慨に耐えない。僕でさえそうなんだから、嬰兒からこれまでに君を慈しみ育ててこられた君の御両親を始め、君を愛する家族の皆さんの嬉しさと喜びはどんなにか大きいことだろう。君が成人して社会人としての旅立ちを祝福しながらも、新しい環境の中で君がこれまでと同じように着実に成長してくれることを願って居られるだろう。その思いは、多分けた違いだろうが、僕たちとて同じなのだ。いま君は卒業する。僕が大学を卒業したとき、学長は聖書からの言葉をはなむけとされた、「鳩のごとく柔和に、蛇のごとく聡く」だった(と覚えている)。暫く後で卒業生に「小さな親切心」を説いた人がいた。またある学長は「ただ酒をのむな」と訓示した。それぞれに正しいのだろう。そういった輩(ひそみ)にならって言うとなれば、「自分には厳しく、他人には寛容に」、そして「自分自身にたいして誠実であれ」と言いたい、自らを省みてのことである。A君、最後にしかし最小でなく、君の健康と幸福と成功(夢の実現)を祈っている。五福でのことを思いだしたら、葉書でも呉れたまえ。再会する日を楽しみにしている。では、さようなら。



## 卒業生の諸君へ

教育学部長 山地啓司



「光陰矢の如し」。今さらながら時のたつのが速いことに驚かされます。義務教育を含めて16年余りの学校生活を終え、実社会へ巣立たんとする諸君へ、日頃の私の考えを述べ卒業生に送る言葉にしたいと思います。

明治維新後の日本の教育は一貫して、“知、徳、体”を主要のテーマとして掲げてきましたが、現実には今日の受験戦争という言葉に代表されるように知>体≧徳のアンバランスな教育がまかり通っています。“知”の中でも物事をいかに多く記憶しているかの知識の集積と、限られた範囲内で習得した知識の応用に重点が置かれ、新しい思想の構築や発明・発見などの創造力が軽視されてきた感があります。その結果、“学生時代に学んだことは実社会では何の役にもたたない”と言ってはばからない卒業生も多いようです。社会が諸君に期待していることは、集積した知識を基盤とした斬新なアイデアと創造力、さらには艱難に立ち向かってゆく行動力なのです。

知識の多い人を“生き字引”といいます。字引は他人が使わない限り役に立ちません。自ら字を引くことはできないのです。知識を“得る”といいますが使うとはいいません。知恵は“出す”といいます。知識を知恵として出さなければ、知識はただ“知的脂肪”としてからだに貯えられているにすぎません。知識を知恵として初めて“知的筋肉”として機能的に働くようになります。実社会で、これまで獲得してきた知識を知恵としてふんだんに応用し、血とし肉としてください。また一方で、知識が枯渇しないように絶えず新鮮な知識を補充するために情報を収集しなければなりま

せん。大学には“卒業”という言葉がありますが、学問には“卒業”という言葉はありません。今後は、“self teacher, self student”をモットーに、自己研鑽に励んでください。あらゆる人々から、また、あらゆる物象から学び取ろうとする姿勢を持ち続ける限り、諸君は成長し続けるでしょう。

欧米諸国は日本に西側諸国の一員として調和ある自由貿易の推進と、世界平和に責任ある貢献を強く求めています。その一方で、日本経済の世界経済へのさらなる影響力の強大化を恐れ、日本人の働き過ぎを批判しています。それに応えるように、週休2日も徐々に実施され、日本人の余暇時間も欧米人並に拡大されつつあります。そして今、“ゆとりの生活”が求められています。では、“ゆとり”とは何でしょうか。周囲を見ると、どんなに忙しくても“忙中に閑あり”の心境で実にゆったりしている人もいます。また、経済的に恵まれていなくても幸福感に満ちている人もいます。こんなことを考えると、ゆとりには個人の主体性の有無が大きく影響しているようです。たとえば、時間に追われて仕事をしてはゆとりがありませんが、逆に時間を追って仕事に打ち込めるとしたら何となくゆとりが生まれてくるような気がします。ワシントン大学のロバート・シード氏は、達成動機の高い人は達成動機の低い人よりも時間意識があるということを実証しています。このことは、仕事に対して主体性を持ち意欲的に取り組むことで、心理的にも時間的にもゆとりが持てることを示唆しています。世界のホンダの創始者、本田宗一郎氏は、“惚れて通えば千里も一里”という言葉を好みました。好きになってしまえばどんな困難も苦勞とは感じない。私にとって仕事は恋人のようなものです、と述べています。また、論語に「これを知る者はこれを好む者にしかず。これを好む者これを楽しむ者にしかず」とありま

す。諸君にも仕事を好み、楽しむようになっていただきたいと思います。

最後をお願いしたいことは、健康であれ！とい

うことです。健康こそゆとりを生む源泉です。人生を積極的に、ゆっくり、力強く歩んで下さい。活躍を祈る！

## 経済学部卒業生へ

経済学部長 吉原節夫



皆さん、卒業おめでとう。心からお祝い申し上げます。皆さんも、卒業にあたり、多くの方々に感謝の気持ちを抱いてほしい。

さて、長い学園生活を終えて社会に巣立って行く皆さんへのはなむけに、

教師の心情から念を押しておきたいことを紙数の範囲内で述べておく。

ここ1年余りの国際問題をみると、湾岸戦争、ソ連邦解体という歴史的な大事件が起きた。そして、中近東の和平問題も旧ソ連に代わる独立国家共同体の政治経済問題も、難問が多く先行き不透明のままである。いずれも、否応なくわが国の国際化を一段と深める要因を包含している。他にも、日米貿易不均衡、ウルグアイラウンド、対岸諸国との交流等々の問題が山積しており、皆さんの職場や生活に直接・間接に大きな影響を及ぼすことは明らかである。これからも目を世界に向け、グローバルな視点に立って、中期的・長期的展望を持ち続けなければならない。

つぎに、国内問題のバブル経済の崩壊も、多くの教訓や示唆を与えている。投機的売買の過熱によって株式や土地は値上りを続け、真の価値と合致しない虚像が横行したわけだが、事態を分析しないで単に時流に追随した者は、バブルがはじけて株式等の価額が下落（担保価値も激減）したので苦境に立たされ、倒産したものも少なくない。それについても、情報化時代といわれる今日、情

報のバブル現象に対処すべきであろう。不正確な評論や統計数値をそのまま鵜呑みにしたりコピーすることなく、これを確認し分析し自ら考える習性を身につけてほしい。本来、社会科学の学習には、このような「ものの考え方」の習得という目的があるのであるが、暗記型学習の域を脱しきれない学生が増えているようなので憂慮している。

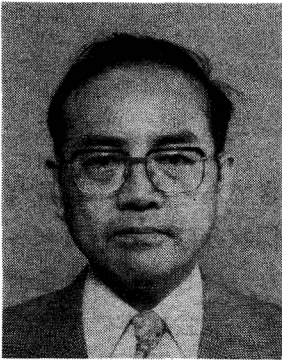
現代日本のバブル的文化構造の由ゆき副産物として、人々の、「妥当性」を求め考える姿勢が、全体として弱くなっているという社会現象があり、政界以外にも金融界・証券界をはじめ各方面で不祥事が続発した。いかなる行為が不当であるか、とるべき手続きは何か、皆さんは、常に自らの行動につき妥当性を検証する気持を忘れないでほしい。

さらに、付け加えるなら、自分の希望とミスマッチと思える仕事にも使命感と情熱をもつように要望する。そのためには、自分の仕事が全体の中でもつ役割と意義を自分の頭で理解することが大切である。全体の中における位置づけを考え、他との有機的関連を把握することが必要であるが、これもまた社会科学的思考に他ならない。別言すれば、一部や一面だけを見るのではなく、全体的・総合的にもものを見て大局的判断をすれば、どのような部署に配置されてもその仕事の意義を見出すことができるであろう。そのうえで、誠実さをもってことにあたり、責任を遂行していただきたい。

それについても、健康が基本。健康を損ねては、前述のことも何一つ実践できない。何とぞ健康管理に十分留意して健闘されることを祈り、皆さんの母校訪問や同窓会（越嶺会）支部総会の折に元気な姿を拝見できることを期待しながら擲筆する。

## 理学部を巣立つ皆さんへ

理学部長 松本賢一



新しく理学の学士・修士となられる皆さん、皆さんの卒業・修了を心より祝福すると共に今後の活躍と幸福を祈ります。

皆さんへのお祝いの気持ちを文字にしながら、1953（1955）年の卒業（修了）当時の状況や展

望や目標意識等が反すうされ、それから今日までの40年近くが思い返され、そして、皆さんが私の年齢に到るこれからの40年程に思いをはせさせられました。

‘基礎学力と柔軟な応用力を培い、状況と動向を把握し、目標をたてそれに向かって努力する’ことは、修学の節目節目に、心掛けたい大切なこととして、強調されることです。これは、つい無自覚に過ぎしがちな、そう簡単ではなくて努力を要する、しかし、本当に大切なことだ（った）と痛感しています。それで、私も、まずこれを、実感をこめて、皆さんに強調したいと思います。

さて、展望は大変難しいものです。通常、その時点での状況とその動向に関するある程度の把握に基づき、その延長としての展望（以下、延長的展望）を試みます。しかし、19世紀末に記された20世紀の延長的展望等をも、延長的展望が、統計量や既生技術については相当に有効でも、社会や科学については容易でないのをみます。同様のことを今日迄の40年間についても実感しています。

陽子や中性子等の素粒子がクォークから構成されていること、「強い力」「弱い力」「電磁力」がクォークのレベルでみせる基本力としての姿、等、の解明は、20世紀後半の物理学の代表的成果ですが、卒業（修了）当時のパラダイムとその延

長を革新する、エキサイティングでドラマチックな、進展でした。ビッグバンに始まる宇宙や物質の進化発展、生命情報の分子レベルでの理解、プレートテクトニクス、等で、私たちの自然観は、20世紀後半に於いても、断続する大変革を経験してきました。この分野に関しては、したがって、‘自然の階層構造と階層間連関や自然の歴史的過程についての私たちの認識の、断続する大変革を伴う、進展’以上の延長的展望は（総論としては）避けたいと思います。

ソ連邦崩壊過程とベトナム戦争過程は、私にとって、この約40年間で最も印象的な社会現象でした。もっとも、小青年期にうけた、日中・太平洋戦争とその帰結及び植民地制度崩壊からの印象はより忘れ得ないものですが。これらはいずれも、国内に於けると他国に対するとを問わず、抑圧と制圧はいずれも破綻すること、人権と民族自決権の尊重が、長期的大局的な基本動向であることをドラマチックに示しました。社会に関する展望を試みる資格は私にはありませんが、この基本動向は単なる延長以上のものに思われます。

この40年間に、既に延長的展望にクローズアップされ始めていた核戦争の脅威とその克服という人類的課題に加えて、開発と環境との矛盾が重大化し、その克服が人類的課題となりました。ローマ・クラブ報告（1972）、ブランド報告（1980）、ブルントラント報告（1987）等のすぐれた研究が発表され、各種の2000年時展望が試みられ、多くの国際会議が組織されてきました。この課題は、世界市場形成の勢いと南北間をはじめとする様々の矛盾、人口問題や食糧問題、等、とも関連し、極めてむずかしい、しかし、次の40年間には、克服のいとぐちを見出さねばならない、人類的課題となっています。それについて、ブルントラント報告の指摘する‘「持続的開発」と「公正」の実

現とは対の概念'への指向やこの課題へのバイオサイエンスはじめ理学の基礎的寄与等が鍵となることを予想しています。

現在、私共は、18才人口が著しく減少するこれ

からの時代をも展望しつつ、大学と学部教育・組織の改善に取り組んでいます。理学部同窓生は40年後には1万人を超えているでしょう。理学部同窓生プラス理学部の盛栄を切望して止みません。

## 工学部学部卒業生・修士課程修了生の皆様へ

工学部長 多 々 静 夫



工学部卒業生・修士課程修了生の方々には小学校から現在までの長年にわたり勉学に努められ、各々の課程を修められて学士・修士の学位を戴かれますことは誠にめでたく、御父兄の方々はもとより大学教職にとりま

してもこれに勝る喜びはございません。心からお祝い申し上げます。

さて、21世紀を目の前にした現在、科学技術の急速な発展は実に目を見張るものがあり、我が国においても自動車産業や電子産業はもとより他の多くの生産技術分野において先進国を凌駕するまでになり、経済大国と言われるまでになりました。しかし、現在の技術の大多数は先進諸外国からの輸入技術を改善応用することによって得たもので、我が国独自で創造・開発された技術は残念ながら非常に少ない。近年は国際的な立場から我が国の技術が発展途上国への技術援助や指導の名のもとに流出し、発展途上国は我が国に追いつけ追い越せと迫ってきております。従って従来の輸入技術の改良あるいは応用ということから脱却し、創造性豊かな独自の新しい先端技術の開発・発展を目指して邁進しなければなりません。そして、科学技術を通じて我が国は勿論のこと、世界平和と人類の幸福に貢献してゆくことが工学人として最大の目標であり理念であると思います。

一方、国際社会は激動していると言われますよ

うにドイツの統合、湾岸戦争、ソ連の崩壊等々世界の動きは目まぐるしく変化し、他方日本国内ではバブル経済の崩壊、PKO問題、市場開放問題、政治改革、人材不足問題等の先行き不透明な事柄が山積しております。このような困難な社会情勢の中で我が国が経済大国としてその地位を保持してゆくためには何といたっても工業技術立国として先進諸国に肩を並べ、あるいは一步先んずることが必須の条件であります。

この時に当り、皆様方は卒業あるいは修了され、社会へ巣立られるわけですが、皆様方はある面での期待と希望、ある面では不安な気持ちが入り混じり複雑な状況ではないかと想像致します。

今皆様方は学士あるいは修士の学位を戴かれたわけですが、学位という言葉は辞典で見ますと、ある学問分野をある定められた期間に割り当てられていた学業を修め、学位論文を提出し、審査に合格した者に与えられる称号となっています。ということはある一つの区切りがつけられたということかと思えます。

従来、皆様方が努力してこられた勉学は端的に言えば各々の分野で予め十分識別された既知の情報を頭の中にインプットし、それらの情報の中から幾つかを複合させて思考する術を学校という場を通して習得されてきたわけで、このことは当然非常に大切なことであります。しかしこれからは過去にインプットした情報に加え、自分自身で自分の個性にマッチしたより高度な情報を収集し、より高次に複合して十分咀嚼した上で独自のものを構築してゆくべく努力を重ねて行かなければな

りません。またこれが創造に通じてゆくものと考えます。

ノーベル賞を受賞された福井謙一先生はあるエッセーに「人間は一人ひとり個性をもっている。周囲や自然に接して感ずること、思うこと、それぞれ違うのが普通である。もしも何人かが同じ物を見て感じ方、思い方が皆それぞれ異なっているとすれば、それらの見方は一様に創造につながる性格を具えているとあってよい。したがって創造のチャンスは誰にでもある。いわばこれが人間のすばらしさであるともいえる」と言っておられます。何だか簡単なように聞こえますがなかなかそうはゆきません。創造には必ず自然現象の謎にぶつかることが予想されます。謎を解きたいとい

う気持は人間の本性であるとはいえ、常人ではこの謎を解き明かすことができないのが実情です。それは謎解きを可能にするだけの情報量の持ち合せがないということと、謎解きにかかる情熱がいま一つ不足しているからであろう。また、これらの謎解きには発想の転換ということも必要でありましょう。

どうか皆様方には社会が要望している創造性豊かな人材として大成されるには高度な情報の収集、謎解きにかかる情熱、発想の転換ということを頭に置いて努力をして戴きたいと考えた次第です。なにはともあれ、健康が第一です。健康に十分留意されて、今後一層の御健闘と御活躍をお祈りしております。

## 退官所感

このたび、3月31日付けで5名の教官が停年により本学を去られることになりました。退官に際し、先生方からそれぞれの思いを執筆していただきました。

## 思い出すこと、思うこと

教育学部教授 吉岡 肇 明



この度、平成4年3月末日をもって富山大学教育学部を停年退官することになりました。昭和35年1月1日付で本大学に着任してから、私の人生の半ばともいべき三十二星霜を大過なく勤めさせて頂きましたが、その

間、学長及び学部長始め、先輩諸先生また多くの同僚の先生方や事務の皆様より頂いた御指導、御助言、御協力に対し深く厚く感謝申します。

私の歩いてきた道程を振り返ってみると、私が着任した当時は教育学部校舎本館は木造二階建てで、

現在の第1棟の学部長室あたりに会議室があり、肩と肩とが触れ合うような寿司詰め状態で教授会が開かれていたと記憶しています。その本館から渡り廊下で美術・音楽の芸能系教棟及び理科・家庭科の実験系教棟に連絡し、更にその後方に道路を挟んで平屋の職業科教棟が独立しており、冬季の吹雪の日などは寒い思いをして本館との間を往來したものです。暖房も大型の角火鉢に炭火でしたので、研究室では行儀の悪い話ですが、よく股火鉢をして暖をとっていたものでした。昭和36年より職業科は技術科と改称し、中学校技術科教員の養成に本格的に始動し始めましたが、何分にも実験用機械や工作機械類は高額のものが多く、到底教官研究費では賄いきれず、毎年概算要求を



## 退官所感

提出して若干は用意しましたが十分とは言えず、現在に至っていることは残念の極みです。それで当時高岡市にありました工学部の機械工学科、後日になって生産機械工学科の援助を仰ぎ、機械工場では機械工作実習を指導して頂き、今日までお世話になっております。本当に機械工学科、生産機械工学科、機械工場の先生方並びに職員の方々には一方ならぬ御援助を頂きましたこと、改めてお礼申し上げます。

他府県出身の先生方は退官なさるれ時、殆どの方が富山県の自然特に立山連峰の雄大さ、日本海で獲れるキトキトの魚の美味等について賛辞を残して去って行かれるようですが、私は生まれは富山、育ちも富山、富山で職に就き、富山で余生を送る生粋の富山っ子であり、富山の自然、富山の味については幼時から慣れ親しんでいて、当然のことと思っていますが、それでも一時学生時代に富山を離れていた時、休みで帰省した折など煤煙尾を引く列車の窓から剣の雄々しい山容を久し振りに眺めた時は、何とも言えない感慨に胸満たされ、窓ガラスに顔を近づけて見入ったものでした。このような素晴らしい自然環境の中に建てられた本学で学ぶ学生諸君は、誠に幸せと言うべきで二度と来ない青春の日々を勉学と研究、心身鍛練活動で充実させて欲しいと願うものです。

私の大学奉職中には種々の出来事もありましたが、それ等についての思い出は32年間の日々のフィルターで濾過され、純粋な和やかさに満ちた

もののみ残されているように思います。自由に自分の仕事に打ち込むことが出来たこと、学部学生や4年間の附属中学での元気の良い若い生徒との出会い、また附属学校の教官方の自己研鑽振りや生徒指導に対する厳しい姿勢に触れ、将来義務教育に携わる教育学部学生の指導について多くの示唆を与えられたことなど――。

最後に思うことの一つを記させていただきます。

以前は教育学部学生は3年次で教育実習を完了し、4年次では教採試験の準備はあったにしても、じっくり一年間時間をかけて卒業研究に取り組むことが出来ました。しかし、現在のように3、4年次の2年間に分割して行くと3年生は余暇が多く、4年生は時間が不足し、研究をはしより勝ちになるのではないかと思いますがいかがなものでしょうか。

今までの長い年月の間に多くの出会いと別れを経験し、それらを通して多くの賜物を与えられ、新しい人生を切り拓く力として頂いていることを感謝し、富山大学の今後の一層の充実と御発展を祈念いたします。

吉岡教授の最終講義が下記のとおり行われました。

日 時 平成4年2月21日(金)  
午後1時30分から  
場 所 教育学部 第16講義室  
演 題 私が歩いた教師街道



## 出 会 い

教育学部教授 廣瀬 禧七郎 ひろ せ きしちろう



人生における人との出会いは誠に“有り難き”ことである。ことに、先生や友人との出会いはそうである。

— 老生の場合 (思い出) —  
焼跡の多く残る大阪大学工学部に入ったのは昭和22年4月。敗戦による虚

脱と活気の混在している頃であった。最初の一年は私鉄沿線郊外の軍施設跡地の急造教室で授業することによって、奇跡的に焼け残った親戚から片道2時間位のところを通った。

電車で時々、顔を合わす級友の一人と何時とはなく話を交わすようになり、彼の下宿を尋ねることになった。親戚から歩いて30分位で行ける教会の牧師館であった。上品な老婦人が応対に出られ、通された彼の机の上には、その年の二月に出た湯川秀樹著の量子力学序説とノートが置かれていた。計算していたところらしく、強い印象をうけた。このこと以外、何を話し合ったか記憶にないが、それ以来お互いに下宿を尋ねあうようになった。そのうちに、彼のいる教会は「電子工学原論」のS教授の所属されている聖公会の教会であり、老婦人は先生の伯母に当る方であることを知った。

先生とも車中でお会いすると話をするようになった。「今や、プロフェッサもプロレタリアートだよ」、「今、電子産業は疲弊しているが必ず日本の重要な産業になる」、「人間は何時も夢を持ち続けなければならない」などと混んだ車中でも大きい声で話をされる方であった。米子弁まじりの先生の講義には必ず出席するようにした。

彼との交友も次第に深まり、遊ぶにしろ学ぶに

しろ、共通の時間を持つことが多くなっていった。近くにおられた院生の方のお宅で応用数学の勉強会を続けたこともあり、時には先生も顔を出された。三年生の卒業研究のときは当然のように二人でS研に入り、夏期実習には先生の紹介で共に中央線沿線にある会社の研究所へ行った。三鷹事件の直後であった。二ヶ月間、隣り合わせの平屋の研究棟で個々に過し、時には一緒に日比谷のCIE図書館へ通った。帰阪後、身体の調子を崩し、帰郷して養生するように言われたが居続け、何とか卒業にこぎつけた。東北大学のW教授がトランジスタ研究の緊急性について講演に見えたのは、この頃であった。

戦後就職難のためか、我儘のせいかわりと残ったのは君達だけだな」と最後まで先生に心配をおかけすることになったが結局、彼は東京の研究機関へ「丁稚奉公」に行き、私は一年おいて郷里の高校に勤めた。初期修業も終る頃、東京へ出てくるように、しきりに彼に奨められたが応じることができず、長期休暇には顔を出すようにした。先生からも外国出張中の機上から何回かお便りを頂いた。

そのうちに、教育学部に新設される技術科へ来ないかとのお誘いをうけ本学へ勤めることになった。

それ以来30年、いろんなことがあり、またいろんな方との出会いがあった。それらの方達にも支えられて今日まで勤めることのできたことを幸せに思い、深く感謝申上げる次第である。

終りに、飛躍期を迎えている富山大学の一層の発展をお祈りし、学生諸君の前途を期待して筆を擱く。

## 退官の御挨拶

経済学部教授 和久利 昌 勇



4年前に、生れて始めて北陸の地を踏み、また始めて国立大学の一員となりましたが、光陰矢の如く、早くも停年退官の日を迎えるに至りました。その間、この自由闊達な学園で楽しく勉強させていただきましたことを、

誠に幸せに存じます。はからずも、昨年春まで何度か病気をしましたため、研究をまとめられなかったことが心残りです。また、健康不調の間、多くの方々に御迷惑をおかけし、種々の用務での御協力もできなかったことを、申し訳なく存じております。今は元気になり、普通に働けるようになったと思っている矢先の時間切れですが、やり残した仕事をなるべく早く仕上げるよう、今後も研究を続ける所存です。

私の担当しておりました保険学は、社会科学の中ではやや特殊な分野ですので、ふだん学生諸君になじみの薄い事柄について抽象的な理論を並べなければならず、このため、とかく、理解しにくいとか興味がわかないとかいうことになりがちです。従って、私としては、具体的な話をなるべく

多くし、また実務の説明も織り込むなど、いろいろ苦心したつもりであり、その苦心が程ほどに実ったであろうことを念願しております。しかし、人びとの生活の安定および経済の円滑な運行のための、保険の重要な役割や、その主な問題点については、あらかたの理解が得られたものと思います。

近頃折にふれて感じることですが、現在のわが国では、それぞれの人が、自分の周囲の限られた世界だけを見、その世界での既成観念を絶対的なもののように思い、その枠の中でのみ物事を考えるという現象が、かなり多いようです。その一方では、本当に尊重されなければならない原理・原則や伝統的な価値が、その時どきの都合で簡単に無視されたりゆがめられたりすることも、しばしば見受けられます。大切なのは、広い視野、普遍的な価値の認識、物事の本質に対する洞察力、他の人びとの考え方や慣習を理解し尊重する謙虚さと寛容さなどの資質や能力で、これらを涵養することが、大学で学ぶについての重要な目的の一つであろうと思う次第です。

去るにあたり、これまで一方ならずお世話になりました皆様方に心からお礼申し上げますとともに、富山大学の一層の御発展を祈念致します。



## 富山の5年間

理学部教授 赤羽賢司<sup>あかばねけんじ</sup>



児島先生（現名誉教授）に安請合をしたまま、赴任してみても、学生の授業だけみても、先生の仕事がいかに大変であるかが、分かって来ました。5年もかかってようやくなんとかしなくてはと思うようになった所です。つまり

身に余る大任でした。前任の大学では、大学院の学生しか知りませんでした。私はここでは、電磁気学を担当しましたが、電磁気学を習ったのは、40年も昔のことです。決められた教科書について、先づ自分が内容をよく理解すること、次にそれを学生に伝えることを順序立てて毎回繰り返して来ました。うまくゆかない時は、私は教えるテクニックがないからだめだ、などと思ったのですが、この頃になってやっぱり、事柄の内容を学生に伝えるには、授業の技術よりも、自分がどれだけ深くその事柄を理解しているのかの方が、遥かに重要であると思うようになりました。物理的にポイントになる内容を、平易な、分かり易い日常語で話し、先生の身体や身振りからその内容が匂い出すような授業をして見たいと思うようになりました。そのためには、やっぱり私の勉強がもっとも必要であると思いながら、月日がどんどん経ってしまいました。うまく云えませんが、大学では自分の研究が進まなくても、只論文がかけないだけのことですが、学生との指導的なやりとりは、失敗すると、とりかえしがつかないというような、どうにもならない気持ちがいつも心の底にありました。

研究面では、全くの無為無策で、只々惰性的に今までのやり残し（無理にそう思うだけ）のようなものを「いじり回した」だけでした。年令的な

こともあったでしょうが、気がついて見ると、自分と同じような古めかしいことをやっている仲間が、世界中にも全く見当たらなくなっていました。30代の前半に、太陽活動域の研究のために手がけた、古い「物理」を乗り越えて、現在の新しい「物理」を身につけることが、どうしてもできないのです。その一つ覚え的な手法が「あてはまるかも知れない」観測テーマを宇宙に探すという、全く本末を転倒したやり方しかできませんでした。観測には、野辺山の共同利用施設を使わせて頂きました。記述的論文ばかりですが、4篇程研究誌に載せて頂くことができました。又富大では、「星間分子の高励起の研究」で科研費を頂き、メチルアルコール（ $\text{CH}_3\text{OH}$ ）の分子を作っているCとOとの距離伸縮運動について、実験室での研究を常川先生方と行なうことができました。しかし、本当の成果はこれからで、500万円3年間の研究経費が、何やら講座の生活費のようなものに充当されて、後めたい気持ちを持ち続けています。しかし、私のような独立性のないものが、富山で少しでも研究ができたと思しますと、それは大学の職員であったからだと思します。やはり職業意識が先行して、研究を支えていたのだと思っています。つまり皆様方のおかげなのです。

宇宙に関係のあることを勉強したいという相談を、学生から屢々受けました。そこで、「物理学科に入ったのだから、4年間は物理をしっかりとやるのが大切です。余裕はない筈です。物理学は、宇宙を勉強するためにはその基礎学問です。そして、よい成績で大学院に入れば、君達の熱意がある限り、指導の先生の御理解の範囲内で、宇宙に関係した勉強や研究もできると思します。」というのがいつも私の決まった答でした。

富山の自然をできるだけ観るよう心掛けて来ました。時々親切にお話を頂いたのは、植物は生

## 退官所感

物の増田先生、鳥のことは物理の飯田先生でした。学園ニュースの後表紙のキャンパス樹木、草本誌（小島 覚先生、長井真隆先生）も、その度読ませて頂くのが楽しみでした。しかし読んだことを、直ぐに忘れてしまう悲しさをどうすることもできませんでした。工学部の古川の土手で「ひめおどりこそう」や「むらさきけまん」の大きな群落（？）が一年で大きく様子が変わることも観ました。同じ古川の「かるがも」や淋しい古洞池の「かもの大群」など。又「おおはくちょう」の田尻池には何回も通いました。温泉については、あまり立派でない温泉に何回も行くのが好きでした。従ってほんの数ヶ所を訪れただけでした。富山の川には、夫々実に沢山のダムや発電所があります。

中には赤さびたものもありましたが、それらが、谷間や、山合いの若葉や、もみじの中ですと美しく観えたものでした。

私事ですが、私は胸にペースメーカー入りの心臓疾患を持っています。富山赴任の時も、主治医は随分と危ぶんだものでした。しかし、本当におかげさまで、健康に原因した休講は5年間一度もありませんでした。本当に感謝しております。

—— 富山の皆さんありがとう ——

赤羽教授の最終講義が下記のとおり行われました。

日 時 平成4年2月13日（木）午後3時から  
場 所 人文学部語学文学棟104番教室  
演 題 富山の5年間

## 力の限りの科学

—— 極限条件の物理学 ——

教養部教授 神 垣 知 夫



### 1. あたりまえの条件

私たちは、暑からず寒からず、20℃ぐらいの気温のときに、元気よく動くことができます。高い山では空気が薄くてぐあいが悪いし、深い海の中でもいけません。このありふれた条件を、常温常圧といいます。地球には磁場があって、磁針を南北に向けるほどの力があります。まあ常磁場とでも云っておきましょうか。こういうあたりまえの状態から離れた状態、たとえば高温や低温では体が参ってしまいますし、考えても意味がないと思われるかもしれません。

このごろ、脳の診断などに、MRIという道具が使われます。ご存知のCTはX線の断層写真をきれいにとる道具で、脳の出血をしらべたり、いろいろと役に立っています。MRIはそれと似た写真をとりますが、X線ではなくて、核磁気共鳴という方法を使います。

私たちの体は、水分をはじめ、さまざまな形で水素原子を含んでいます。それは、生命現象について大切な役割をもっています。水素の原子核は弱い磁気を持っていて、電波に反応します。その反応は、かなり強い磁場があるとはっきりとあらわれます。MRIは磁場の中に体を入れてもらって、電波に対する反応をしらべ、それをいろいろな臓器の形なりにあらわしてくれるのです。臓器の働きに応じて水素原子の状態が違いますから、それを手掛りにして、生命現象そのものや、病気になった時の変化などをしらべるのです。

このときの磁場の強さは、地球磁場の1万倍ぐらいでしょう。常状態からかなり外れています。しかし生命現象を深く知ろうとすれば、こんな極限ともいえる条件が必要になるのですね。生命もその一つですが、自然現象を良く理解しようとするれば、私たちの普通の経験の範囲を超えるような条件も必要になります。

### 2. 極限の条件

私たちは地球の上に住んでいます。地球の中はどうなっているのでしょうか？たぶん熱くて岩石

が溶けていて、圧力も高そうです。地球の内部をしらべるのに、地震の波を使う方法があります。地震波には、たて波とよこ波があって、伝わる速さが違います。地震があって間もなく、震源はどのあたり、深さ何kmとニュースが出ます。それはこの速さの違いから計算できるのです。

ところで、たて波は気体、液体、固体に関係なく伝わりますが、よこ波は固体しか伝わりません。地震のたて波は、地球の裏側からも中心を通過してまっすぐやってきますが、よこ波はそうでないことが分かっています。どうやら地球の中心近くは、よこ波を伝えない状態、つまり液体らしいのです。

地球全体の目方は、私たちの見なれている土や石よりはもつと重いと推定されています。つまり表面は軽い物質だが、内部は鉄のようなもつと重い物質らしいのです。しかも高い圧力がかかって、高温で、液体の状態らしいのです。こうなると、実験室で高圧力、高温の状態を作って、地球の深い内部の様子を再現してみたくになります。

### 3. 金属の物理学と極限の条件

この頃超伝導という言葉がよく新聞に出ます。リニア新幹線は超伝導を使いますし、ブッシュ大統領がやって来た用件の中にもSSC—超伝導大型原子核衝突実験装置のことがありました。超伝導は電気抵抗がゼロの状態、電気を流しても発熱による損失がないという現象です。水銀、鉛、錫などの金属をマイナス270度ぐらいの低い温度に冷やすとあらわれるもので、非常に珍しい現象と思われていました。ところが最近低温技術が進歩して、どんどん低温に冷せるようになってみると、金属は超伝導になるのがあたりまえで、ならない方が特殊な変りものだということが、分ってきました。

今、物理学者が考えている金属の姿はこうです。規則正しく格子の目に原子の芯が並んでいて、その間を電子が飛びまわって結びつけているというのです。現在の物理学の理論では、ごく簡単な構造の原子しか扱うことができません。いちばん簡単な原子は水素原子で、陽子1個と電子1個とできています。しかし水素は常温では気体で、マイナス260度でも結合の弱い分子性の結晶で、

電気を伝えるような金属状態にはなりません。

そこで考えられるのは、極限の状態ではどうかということです。うんと高い圧力—地球中心は360万気圧といいますが、少なくとも、それぐらいかけたらどうなるでしょう。まず原子同志がぐっと近寄って電子を共有し、それから原子芯の陽子を伝導電子が結びつける状態になれば、これこそ正に金属です。金属状態になったかどうかは、光を使ってしらべます。ガラスは光を通すけれども、アルミは通さないでしょう。金属は光に対して、特別な性質があるのです。それから、圧力をもう少し高く、温度を低くしたら、超伝導状態になるかもしれません。いちばん簡単な構造の金属—金属状態の水素が実現したら、それをくわしくしらべて、難問をみごとに解いてみたいものです。

### 4. 力の限りの科学

ここまでの話は、自然現象のひとつ、物質の本性を、極限の条件に置くことで解き明そうという試みの筋道です。いま現在、これに取り組んでいる物理学者は世界中にいます。ここ富山でも、非常に低い温度、非常に強い磁場、非常に高い圧力といった条件が整備されてきています。これからの発展が楽しみです。

自然現象を明らかにするには、私どもの普通の経験範囲を離れて、極限ともいえる条件さえも自在に操れなくてはなりません。物理学に限らず、基礎的な学問は、自然現象や社会現象の根本にどこまで迫ろうかという、人間の知的な探究心の結集したものです。その成果がどういう功用を生むかとは直接関係なしに、とにかく深く探って本質を明らかにしようとするものです。人間の人間としての力を最もよく発揮してもらいたいものなのです。力の限りをつくして解き明かす魅力に溢れたもの、それが基礎的な科学だと考えます。極限条件下の物理学も、私たちの知的な探求心を誘ってやみません。

神垣教授の最終講義が下記のとおり行われました。

日時 平成4年2月6日(木)午後2時から  
場所 教養部 2番教室  
演題 力の限りの科学—極限条件の物理学—

## 新任教官紹介

澤 瀉 いづみ 平 3. 9	助手（教育学部）4. 1. 1 富山大学教育学部卒業 担当：化学	岩 渕 牧 男 昭34. 3	教授（工学部）3. 12. 1 東北大学工学部卒業 工学博士 担当：熱流体システム工学
與志平 尚 平 2. 3	助手（理学部）4. 1. 1 九州大学大学院農学研究科 修士課程修了 担当：生理学		

## 新任挨拶

教育学部助手 おも だか 澤 瀉 いづみ



1月6日より教育学部化学研究室にお世話になっている澤瀉いづみです。澤瀉は“オモダカ”と読みますが、今までの24年間初対面で正しく読んで頂いたのはたった3回です。よく「どうして澤瀉を“オモダカ”と読むのか。」という質問を受けますが、私にもどうしてなのか分かりません。中学生の頃、辞書で調べて初めて自分の姓が雑草の名前であることを知り、驚きました。オモダカは真夏の水田や浅い沼地で白い水玉のような花をつける多年草で、葉の形を人の顔に例えて「面高」の名があり、漢名が「沢瀉」なのだそうです。

“雑草のようにたくましく生きる”とは、私にピッタリのような気もしますが、こんな私も日本舞踊などを3歳の頃から習っているのです。今までに大きな舞台は2度だけですが、その感動は忘れられません。それではここで少し、舞台に立つまでの当日の支度を説明致します。テレビで見ると歌舞伎役者は自分で支度していますが、私達は慣れていないので専門の業者に来てもらいます。当日会場に入ると、すぐ浴衣に着替えて化粧をし

てもらいます。白塗りといって顔から肩にかけて真っ白にされ、その上から役柄に合った顔を作られます。顔が出来上がるとかつらをつけてもらい、着物を着せてもらいます。徐々に役に近づいていくという感じです。躍っている時は無我夢中ですが、気分は最高です。この感動を味わいたくて今も続けているというわけです。

日本舞踊を習っているからといって、おしとやかなわけではありません。実験の時に器具を壊してしまうこともよくあります。先日行なわれたセンター試験でも、何か失敗するのではないかと両親が大変心配しておりました。幸い何とか無事に終えることができましたが、初めてのことで非常に緊張しました。別に肉体労働をしたわけでもないのに、家に帰るとすぐ眠ってしまいました。

申し遅れましたが、私は研究室で有機化学（高分子）の研究を手伝わせて頂いております。まだまだ勉強不足で、毎日が新しい発見です。実験も楽しく、だんだん興味が深まっています。いずれは日本舞踊の道に進みたいと思っている私ですが、化学から得ることも少なくはないと確信しています。1年3ヶ月という短い期間、本来なら体験できない職業に就けたわけですから、精一杯努力していろいろな事を吸収し生かしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

## 新任挨拶

### 新任挨拶

理学部助手 よしひら 與志平 たかし 尚



1月1日付けで理学部生物学科の助手として着任いたしました。どうぞよろしくお願い致します。

昨年の12月まで九州大学大学院博士課程に在学し、博多での生活を満喫しながら植物の芽生えを用いて光合成に関する

研究を行なってきました。中でも植物が環境の変化に対してどのような調節機構を働かせて適応するのかということに関心を持っています。

私は九州のはるか南、東シナ海と太平洋に囲まれた沖縄に生まれ、二十数年間をそこで過ごしました。沖縄はサンゴ礁と亜熱帯植物に代表される

ようにとても暖かいところで、海岸にはマングローブと呼ばれる耐塩性の樹木が生育しています。そのマングローブに興味を持ったことが光合成の研究に携わるきっかけになりました。それから福岡へ移りましたが、まさか雪国に暮らすようになるとは思っていませんでした。しかも真冬の1月に赴任とは。幸いにも今年は暖冬ということではっています。育った所とまるで違う気候の下で暮らすことに不安もありますが、豊かな自然に恵まれた富山で社会人としての生活が始まることを幸運に感じています。

体力には自信を持っているので、全力投球をモットーに頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

### 新任の挨拶

工学部教授 いわ 岩 あき 瀨 まさ 教 お 勇



昨年末の12月1日付で工学部機械システム工学科に着任いたしました。どうぞよろしくお願い致します。担当は熱流体システム工学講座で早速講義を始めております。

大学を卒業以来、30年余りを民間企業である三菱重工の研究開発部門で過ごし、今度は大学で学生の教育・研究指導に当たることになりましたが、企業にしながら抱いていた学生に対する期待像はありましたので、幾分なりともその現実に努力し

たいと思っています。

研究経歴は、30年の間ですから研究の企画・マネージメントまで含め色々ありましたが、その中で一番嬉しかったのは、初めての海外発表論文でそのオリジナリティが認められ、イギリス機械学会から論文賞として150ポンドを貰った時のことです。専門分野としては、流れを伴う伝熱、特に沸騰・凝縮など相変化のある流動伝熱です。これは、日本の電力供給の大半を担う火力・原子力発電プラントでの重要技術の一つで、効率向上には蒸気条件の高温高压化が不可欠なことから、超臨界圧流体など高压での伝熱流動現象の解明は随分やりました。今後のテーマはまだ決めているわ



## 新任挨拶

けではありませんが、将来の工学上の問題としても重要な、地球温暖化の問題とは切り放せないエネルギー有効利用に関係する熱流動の問題にしたいと考えています。

趣味としては、長崎での生活が長かったこともあって、そのときに仲間と小さな外洋ヨットを手

に入れ、五島列島や天草などへのクルージングを楽しみ、あるいは草レースに熱中していました。富山に住むのはもちろん初めてですが、20年ばかり前に一度だけ立山の春スキーに来たことがあります。少しずつ足慣らしをして、そのうちに雪国のメリットも活かしたいと思っております。

## 在外研究報告

### 中世都市モネンヴァシア訪問記

人文学部講師 **ねづ ゆきお** 根津 由喜夫

ギリシアと言えば誰もが古代の遺跡や美術作品、それに古典文学などを思い出すことだろう。この時代を誇る気持ちが現代のギリシア人にも強烈なことは、たとえばアテネ空港で我々が両替をして手にするのが、ペリクレス、アリストテレス、ホメロスといった古代の偉人の横顔を刻んだ硬貨とアポロンやアテナなどオリンポスの神々の像を印刷した紙幣であることからわかる。

反面、この国に興味深い中世の歴史的遺産が数多く残されていることは、一般にはあまり知られてはいない。今回、紹介するモネンヴァシアに関しても、日本を発つ前に目を通した邦語のガイドブックの類で言及しているものは皆無だった。だが、4世紀から15世紀にかけてバルカンと小アジアに君臨したビザンツ帝国の歴史を専攻する私にとって、この町は以前から何としても訪れてみたい場所だった。昨夏、ようやく念願を果たすことができたのだが、以下はそうした真夏の旅の一齣である。

1991年8月14日、スパルタのラコニアホテルで朝5時半に起床。今日は7時のバスでペロポネソス半島の突端の町モネンヴァシアを訪ねる予定だ。前日約束しておいたにもかかわらずホテルで朝食の支度ができておらず、ロビーで寝込んでいた宿直の男性を起こすのに苦労したり、バスに乗り込めば飛び込んでくる冷たい朝の風に下半身を冷や

して途中の町の広場のカフェーのトイレに駆け込んだり、さらにバスの乗り換えのために途中で1時間の足止めをくったりして、結局、モネンヴァシアに着いたのは11時をまわろうとしていた。バスが発着するのは新市街であり、本来のモネンヴァシアの町は港の前面に浮かぶ高さ300メートル、長径1500メートルほどの東西に細長い台地状の小島にある。本土側と海中に立つこの小島との間は1本の道（当初はただの砂洲だったという）で結ばれており、それがこの町の名の由来になっている（モネンヴァシアとは、中世ギリシア語で「たったひとつの入口 monem embasia」の意）。

この町の歴史は6世紀後半に遡る。バルカン半島を南下してペロポネソスに侵入したスラヴ人の



ギリシアで売っているバンダ型アイス（キオス島にて）

圧力を逃れたギリシア系の住民が防衛しやすいこの地に移住したのだ。モネンヴァシアの旧市街は岩山の頂に広がるUpper Cityと、唯一、海に接して斜面が緩やかになる島の東南部分を占めるLower Cityから成っている。「下町」は周囲を城壁で囲み、今日、本土から島の南岸沿いに歩いていくと、この城壁の西側部分が斜面を駆けおりて海に達しているのが目に入ってくる。



「上町」より見おろしたモネンヴァシア「下町」の中心部

城壁に設けられた市門をくぐれば、そこには文字通り中世の町並みが眼前に広がっていた。わずか幅2メートルほどのメインストリートに人が混みあい、その両側には古い石造りやくすんだ漆喰塗りの建物がびっしりと立ち並んでいる。建物の人ひとりがやっと通れるほどの路地は本当に迷路のようだ。

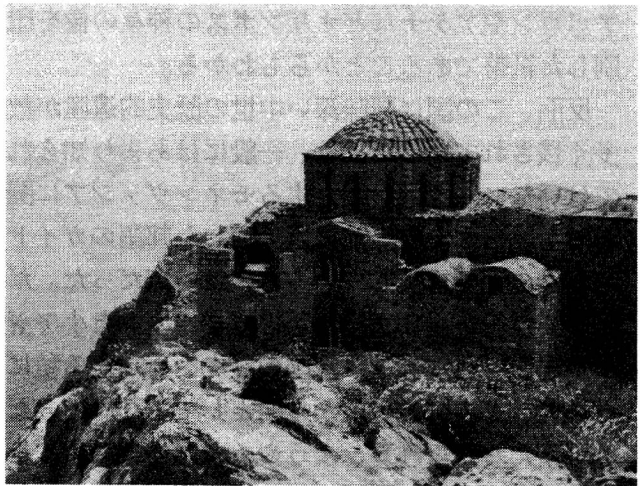
ビザンツ帝国の首都コンスタンティノーブルと西欧を結ぶ海上ルートに接するモネンヴァシアは良港を備えていたこともあり、商船の寄港地、ペロポネソスの産物の積み出し基地として発展した。その間、この戦略拠点の奪取を数多くの外国勢力が目論だが、1249年、3年に及ぶ攻囲戦の末に第4回十字軍のラテン勢力に対して開城したことを唯一の例外として、モネンヴァシアの町は敵の攻撃をことごとく退け、その自由と繁栄を謳歌したのであった。

1263年にラテン支配を脱してから15世紀半ばに至るまでのいわゆる末期ビザンツ時代にモネンヴァシアは黄金時代を迎える。当時、ビザンツの版図

は首都コンスタンティノーブル周辺とペロポネソス半島（当時モレアと呼ばれていた）の2つの部分に縮小していたが、モネンヴァシアはモレア分邦の首都ミストラの外港としての機能を担って自治的な海港都市として繁栄し、一方、この町の商人は皇帝から種々の通商特権を獲得して東地中海に雄飛したのである。

1453年にビザンツ帝国が滅亡した後、この町は東地中海の覇権を競うヴェネツィアとオスマン＝トルコとの間の争奪の対象となる。この町がヴェネツィアに支配された記憶は、10世紀に起源をもつ府主教座聖堂を含め、「下町」に現存する古い教会建築の全てが16-18世紀のヴェネツィア支配時代のものであることにとどめられており、また、聖堂前の町の中央広場に付されたプラティア・ジャーミー（モスク広場）という名前は、その前後のトルコ支配時代を偲ばせている。

つづら折りの石の舗道を踏んで「上町」へ昇ろう。頂上に出る部分は短いトンネルになっていて有事にはここを閉じて敵を防ぐ仕組みになっている。「上町」に現在、住む人はいない。ただ夏の

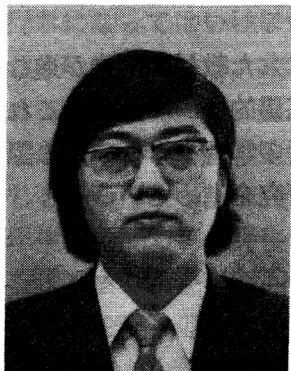


断崖上の聖ソフィア教会

日射しのなかで麦わら色になった枯れ草と、煉瓦や石の住居の残骸が散在するばかりである。そのなかで唯一、この町最古の教会建築、聖ソフィア教会（13世紀）が修復され原型を留めている。教会脇から見おろす海はこのうえもなく青い。かつて、ここから、白い帆を輝かせた多くの船が出入りするの望見されたことだろう。

## ハイパーメディアを用いた情報教育用教材の開発に関する研究

教育学部助教授 山西潤一



新学習指導要領の告示によって、21世紀を生きる子供たちに対する教育課程の基準が明らかになった。新学習指導要領全体としては、社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成を図ることが基本的ねらいであるが、

ここでの重要な視点の一つに、情報化社会の進展に対応した情報活用能力の育成があげられる。「高度に情報化された社会の中で、この情報活用能力のあるなしが、個人の社会的、文化的な活動にも影響する」という臨時教育審議会の答申に対応したものである。

ここで情報活用能力とは、

- 1) 情報の判断、選択、整理、処理、及び、新たな情報の創造、伝達能力
- 2) 情報化社会の特質、情報化の社会や人間に対する影響の理解
- 3) 情報の重要性の認識、情報に対する責任感
- 4) 情報科学の基礎、及び情報手段の特徴の理解、基本的な操作能力

をいう。

小学校教育にあっては慣れ親しむことから、中学校教育にあっては個々の教科の特性との関連の中から、この情報活用能力の育成が図られようとしている。

今日、コンピュータはどんどんブラックボックス化し、我々は知らず知らずのうちに、このブラックボックス化したコンピュータシステムを利用している。日常生活においても単なるスイッチ押しで目的がかなえられることが多くなる。こうなると、システムを作る側とそれを単に受け入れる側という分化は避けられない。ここで、受け入れる

側といっても、ブラックボックス化されたシステムをただ単に受動的に受け入れるだけではなく、そこで働いている機能や役割について、ある程度は想像できる能力を持つこと、システムの向こう側に何があるのかを常に考えておくことが重要である。このような意識が、情報化社会そのものや、その影響下で生きることの理解につながるからである。

情報化社会の特質は何といっても「あらゆるものを情報と化してしまう社会」ということである。そして、ひとたび情報に化されてしまうと、コンピュータと通信技術によって、さまざまな人々に影響を与える可能性があるということである。情報に化すのは、あくまで人である。情報の意味、情報の扱い方、情報に対する責任感の養成などを意識させることが単なる操作学習以上に重要となってくる。

さて、学校教育にコンピュータがどんどん導入されてきているが、従来は必ずしも前述したような視点のもとに活用が図られてきたわけではない。コンピュータの教育利用の歴史は、いかに充実した個に対する教育を実現するかという考えで始まった。約40年前のことである。そこには大きな2つの理論的背景がある。一つは、スキナー (B.F. Skinner) の行動主義的学習理論であり、もう一つはピアジェ (J.Piaget) の認知発達学習理論である。1950年代に始まるスキナーのティーチングマシンはオペラント条件付けの考えを人間の学習に応用したプログラム学習で、ここでの個別化は主に個の学習速度や達成度に応じた個別指導を可能とするものであった。一方、認知発達理論に基づくコンピュータ利用は、環境への能動的な働きかけに対する応答との相互作用によって学習が成立するというものであって、ここでは応答する環境としてコンピュータが活かされる。パパート

## 特定研究報告

(S.Papert)によって開発されたLogoがその代表的なものであり、マイクロワールドと呼ぶ子供の能動的活動の場としてコンピュータが利用されている。ここでは子供の学習スタイル、認知スタイルに応じた教育を可能にしている。

汎用の大型コンピュータをTSSで使用した時代から、今日のパソコンに至るまでこれらの考え方に大きな変化はない。

ハイパーメディアとはテキスト、絵、音声、映像などさまざまなメディアを統合して扱える環境である。この環境の下で開発された教材は、従来

の単一メディアによる教材に比べ、伝達される情報量等、双方向コミュニケーションの質的变化をもたらす得るので、学習に対する動機付けの高まりや理解の促進につながる可能性がある。また、学習者による制御の自由度の大きさから、より主体的なマイクロワールドを実現できる可能性も高い。

今後、情報教育を目的にした教材の開発が進む中で、その設計に資する基礎的データとなるこれらのメディア特性と学習者の学習プロセス等の認知的側面の問題を中心に研究を進めている。



## 「大学祭」について

学生部長 <sup>ます</sup>増 <sup>だ</sup>田 <sup>のび</sup>信 <sup>ひこ</sup>彦

「大学祭」は、学生が主体性を持って行う最大のイベントです。この大学祭に対する学内の意見を踏まえ、私の所感を述べて、皆さんに考えてもらいたいと思います。

本学の大学祭も今年で37回を数えておりますが、ここ数年の大学祭を見ると、歴史だけが一人歩きしている感じがしないでもありません。大学祭の本来の目的は、主人公である学生一人ひとりが主体的に参加し、日頃の研究活動・課外活動の成果を発表する機会であると同時に、自分達のイベントを仲間と共有し、思う存分楽しむことだと思います。また、このことが、教職員との親睦を図り、かつ地域社会との交流を通じ市民に開かれた大学としての役割を果たす等、非常に意義深いことと考えられるので、大学側としても「全学的行事」として休講措置、施設使用、物品援助等の支援を行っているのです。

感じたことの第1は、企画の面ですが、「食べて」「飲んで」「踊って」の賑やかな自己満足型の模擬店・ライブハウス等の企画が主流で、特にメインストリートを埋める模擬店の出店は、年々増える傾向にあります。この種の企画を否定するものではないが、以前企画されていた研究室・ゼ

ミ・サークルが講義室や実験室を開放しての実験や研究成果の発表・展示・実演が少なくなったことは非常に残念であります。もちろんこのような傾向は本学のみならず多くの大学の大学祭にも云えることでもあります。しかし、このような流れの中で、昨年企画された美術・書道・写真部の作品展示、越中寄席・討論会・邦楽演奏会・野点・民族舞踊・石鹸作り等工夫を凝らした企画は市民にも人気があり、大学と市民との交流の場につながっていたように思います。他の多くのサークル等も人に見てもらえるものを持っていると思われるので、今後の拡充を期待したいものです。

その2は、学生の大学祭の捉え方です。参画している学生は、一部の学生であり、多くの学生は、大学祭の期間中アルバイト、旅行等他のことに時間を費やしているようでした。このことを現代学生気質（かたぎ）と一言で片付けてしまうには、あまりにも残念であります。大学祭の置かれている立場を理解し、積極的に参加することは大学生活を豊かにするのみならず、日常生活では得難い体験を得る可能性があります。より多くの学生が参加して、大学祭がもっと盛り上がるように、学生諸君の奮起を期待するものです。

## 大学祭について

その3は、大学祭の醸し出す雰囲気から開放的になり、事前に企画側学生と大学側との取り決めが、なかなか守られないことである。例えば騒音問題、教室使用、後片付け等である。日常の授業・実験等の抑圧から開放され多少の羽目はずす気持も理解出来るが、市民との交流の場が迷惑行事になってはいけないことである。地域社会における大学として、大学生として守るべきルール、モラルを大切にしたい。また、教室使用等の問題があります。教室使用許可時間を過ぎても催しを終わろうとしないため、指導の教官と企画側学生との間で毎年深夜に不愉快な論議をしなくてはなりません。第37回大学祭においてもこのようなことを繰り返さなくて済むように、実行委員はもとより、企画側学生のルール順守を求めます。

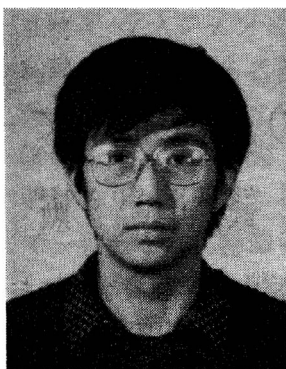
更に、後夜祭を終えた朝のキャンパスの疲れた顔を見たことがありますか？「兵どもの夢の跡」ではないが、飲んで、食べて、騒いでの残骸が辺り一面に散乱し、鼻をつくゴミ処理を誰がしているのだろうか？職員とほんの一部の学生が行っているのです。ゴミ処理問題が盛んに論議されている昨今での、このような状態は誠に残念です。

以上、種々述べましたが、学生諸君が主体的にしかも責任を持ってやって欲しい一念であって、決して、大学祭の管理を強めようとするものではありません。大学側として、また、教職員として大学祭の充実を願っているものであり、今後も企画側学生とお互いの考え方を話し合い、大学祭の質的向上を図っていききたいものです。

## 留学感想

### 留学の感想

外国人留学生（大学院工学研究科） 任 春 力（中国）



私は任春力です。日本に来て、3年目になりました。現在、工学部の八木先生の研究室で生体工学の勉強をさせて頂いております。今年の3月で修士課程を修了しますが、振り返ってみると、あっという間の3年でした。

習慣や生活の違いで、3年間の短い間でも、いろいろな感想や思い出などがいっぱい残っております。

私の故郷は中国の西安です。中国の唐時代の都でした。古典的な町で古代の遺跡がいっぱい残っております。日本に留学することが決まったとき、私は日本とはどんな国か想像してみました。超高層ビルが林のように立ち、道が広くて、町が人で

溢れていて、皆広くてきれいな部屋に住んでおられるでしょうと。私たちもきっとそういうところに住むだろうと思って日本に来ました。しかし、最初に訪れた宇都宮での滞在は想像からはずれました。私達の家は灰色のアパートの一室で、建物が旧くて風で飛ばされそうな所でした。道も細くて、超高層ビルもなかったんです。ここが我が家ですよって言われたとき、正直に言って、私はがっかりしました。木造の部屋、小さくて、紙のドア（障子のこと）、草の床（畳のこと）、素足（靴を脱がされたこと）等、予想していなかったのです。それから、まわりの留学生、特に私費留学生の生活を見たら、物価高の日本では留学生が大変だと思い始めました。在米留学生に比べて、在日留学生は、奨学金の数も少ないし、各手当も不完全だと思いました。仕送りはもらえばいいけれども、円高で中国のような国には、仕送りできる家

## 留 学 感 想

庭はほんの僅かでしょう。幸い、現在、日本の経済は急速に伸びていて企業に人手が足りないのので、私費留学生はアルバイトをしながら、何とか学業を続けていけそうです。留学生にとっては、学費や家賃は最も大きな経済負担でしょう。日本の各大学では留学生に対する学費免制度がやっと整ったようですが、留学生の住まいを解決する寮制度などはまだまだ不十分だと思っております。寮があれば、留学生がどんなに助かるか、理解してもらいたいものです。

辛いこともあったんですが、日本の好きなところも沢山あります。私の故郷は中国の内陸にあり、砂漠の影響で、空気が乾燥して砂ほこりが多いです。ちょっとだけ外へ出掛て帰ってきたら、靴がほこりだらけになるのです。私は島国で空気が新鮮で緑が多くて町がきれいな日本が大好きです。白いズボンをはいて大学のキャンパスの道に座っても汚れないなんて信じられませんでした。

少々話が変わりますが、私は日本の大学の研究室に入ってから、感じたことがありました。まず、日本人学生は応用知識が豊かですが、基礎知識が

少々足りないようです。それは多分日本では応用技術が注目され、基礎研究が重視されていないからでしょう。教室に空席がないほど座って、本を読んでいる中国大学生の姿とは反対に、パソコンの前に座ってプログラムを組んだりするとか、実験に潜り込んで新しい装置を作ったりするとかの風景が日本の大学ではよく見かけます。次に、大学の研究設備が古いことに驚きました。日本のような先進国の大学では、一流の設備を使っていると思ってましたが、企業の研究機関の設備に比べたら、たいしたことはなかったようです。最後に、日本の大学の先生の指導の仕方に感心しました。先生方が学生に知識を教えるだけでなく、研究テーマの選択から修論を完成するまでを通して、学生に研究の仕方と将来自分で独立して仕事を担当するときの対応の仕方を教えていると思います。

最後に、この機会を使って、八木先生をはじめ、日頃大変お世話になった先生方、学務係の方々、学生部の方々及び研究室の仲間達に心からお礼を申し上げます。

## 学 会 報 告

### 第1回リスク・マネジメント富山国際会議（TRMC）を主催して

経済学部教授 武 井 勲

リスク・マネジメントに関する関心が急速に高まっている。リスク・マネジメントは、変化と利害の対立から生じるビジネス・チャンス、損失の危険、その対策をマネジメントの見地から考究する哲学・学問・技術である。たとえば、防災、安全、環境、医療薬品事故、製造物責任（プロダクト・ライアビリティ）、保険、危機管理、財務管理、貯蓄、社会保障、年金基金、金融サービスの流通制度、サービス経済化に関する対応などが、リスク・マネジメントの守備範囲に入る。アメリカでは、70近くの大学に、リスク・マネジメント

の講義がある。我が国は、富山大学経済学部において、リスク・マネジメント講座が1978年頃より開講され、1988年にわが国初のリスク・マネジメント論教授が誕生し、リスク・マネジメント研究の一つの核を形成しつつある。また1991年4月からは、同大学院（修士課程）においてリスク・マネジメントの講座が開講される運びとなり、欧米先進国に比肩できる学術的構造の基礎ができた段階にある。

このような状況の下で、「リスク・マネジメント富山国際会議（略称 TRMC : TOYAMA

RISK MANAGEMENT CONFERENCE)」は、平成3年11月4日から8日まで本学の黒田講堂をメイン会場として開催された。地球的規模で、「リスク・マネジメントの学問的及び実務的意義と役割」を研究する上で世界で最初のコンファレンスとなった。

リスク・マネジメント富山国際会議 (TRMC) は、テーマとして3つの問題を取り上げた。

1. 学問としてリスク・マネジメントはいかにあるべきか。そしてあり得るか。
  - (1) 歴史、(2) 理論、(3) 政策
2. 組織（官公庁や企業等）の中の機能（Function）及び職業（Profession）としてリスク・マネジメントはいかにあるべきか。またあり得るか。
3. リスク・マネジメントを普及する上で、政策、産業及び企業、研究教育機関、国連等の役割と課題は何か。

これらの諸点を分析することにより、「リスク・マネジメントの学問的及び実務的意義と役割」をかなり明らかにすることができた。目下、日英両文の報告書を作成中であるが、成果は、そこに顕在化するものと自負している。評価は様々であろうが、少なくとも3つの成果があった。(1) リスク・マネジメントの対象を保険的／財務的な純粹リスクに限ることの不十分さ、(2) 経営者、政治家、行政等のリーダーにとって不可欠な認識課題であること、(3) 国際的協力、発展途上国におけるリスク・マネジメントの促進の必要性の点で一致をみた。特筆しておきたい。

この会議では、基本テーマを、筑波大学 池田三郎教授をはじめアジア・アメリカ・ヨーロッパ・オセアニアの学者、国連貿易開発会議 (UNCTAD)、日本銀行、経団連を含む日米欧豪等の1万社を超える組織のリスク対策責任者の協会代表、コンサルタント等、18の発表を得た。コンファレンスの特別講演は、財団法人とやま国際センターのウォルター・ニューポートⅢ氏が国際理解の視野から富山文化を論じ、好評を博した。会議を通じ、行政官、企業経営者、プロフェッショナルの立場から情報・意見を交換することによって、い

くつかの議論、アプローチ、及び保険への対応策やヒントが得られた。特にポスト・コンファレンスのブレーン・ストーミングの内容とその質の高さは圧巻であった。アフリカ、中南米、東欧圏からの参加を得られなかったことは、国際会議として若干物足りない面もあったが、将来充実を図ってきたい。

この会議は、参加者には特別な感動を与えた。情熱を傾けて会の運営に献身した102名の大学院及び学部生と小黒学長、吉原学部長をはじめ、協力委員の各教授陣並びに教職員のご協力と参加者の心温まる人間的交流の故である。富山大学には社会的注視とステータスを与えたと思う。NHKほかテレビ局の報道、新聞雑誌等の驚くべき反響と、掘り下げた報道のおかげである。世界的に有名な専門誌の外国人記者も2名が全日程参加し、グローバルに報道、論評された。この研究に没頭して約20年、文字通り茫洋の嘆を孤独に嘯みしめつつ一条の光を求めてきたが、この会議はリスク・マネジメントの学問にとって、また私にとって大事な一里塚となった気がする。ある学問の歴史が始まった……という感懐。目的意識、並びに感謝に満ち満ちた5日間、否、1年間であった。

会議開催にあたっては、組織委員や経済学部その他、富山県、経団連をはじめ14団体からご後援の上、指導、激励を頂き、心より感謝している。



## CD-ROM 情報検索サービスの開始について

近年の技術進歩に伴い、ニューメディアとよばれる資料が急速に普及しています。特に、CD-ROM出版物は、過去2年半で5倍強、約2000種が発行され、学術情報の媒体として、まだ図書館資料として重要になっています。

そこで、図書館ではパソコンとCD-ROMによる情報検索サービスを開始しました。

CD-ROM (Compact Disc-Read Only Memory) とは、音楽用のコンパクトディスクに文字や図形データを記録し、そのデータをパソコンで検索できるシステムです。

利用は、開架閲覧室に設置してある2台(国内用・海外用各1台)の端末機で、各自で検索してください。

検索費用は無料です。

CD-ROM出版物の内容は多種多様ですが、辞書や目録類、各種のデータベース情報等です。

なお、図書館では、下記のソフトが備え付けてありますので利用してください。

CD-ROM (Compact Disc-Read Only Memory) とは、音楽用のコンパクトディスクに文字や図形データを記録し、そのデータをパソコンで検索できるシステムです。

### CD-ROM 出版物一覧

#### ア) 国内ソフト

タイトル	種類	概要
学術雑誌総合目録 CD-ROM版	目録	日本の大学等が所蔵する学術雑誌の書誌・所蔵情報。「学術雑誌総合目録」和文編、欧文編および変遷マップ全10巻のCD-ROM版。
J-BISC (カレント版)(週及版)	目録	国立国会図書館が所蔵する図書の本誌・所蔵情報。1969年から現在までの約100冊を収録。年4回データが追加される。
CD-BOOK ( '86~'90)	目録	国内で出版されている図書の内容(要旨・目次)と書誌事項を収録。1986年から1990年までの約17万件。
Oxford English Dictionary on CD-ROM	目録	オックスフォード英語辞典全12巻のCD-ROM版。語源、例文中の単語等からの多機能検索ができる。
CD-HIASK ( '85~'90)	新聞記事	朝日新聞の全文記事データベース。1985年から1990年までの記事、約40万件。
電子広辞苑	辞書	「広辞苑」のCD-ROM版。説明文中の単語からも検索できる。
現代用語の基礎知識	辞書	「現代用語の基礎知識」のCD-ROM版。
CD-人情報 (ビジネス経済・政治)	辞書	現代社会に影響を与えているビジネス・経済・政治分野のキーパーソン約8万人のプロフィールと文献情報。
CD-WORD	辞書	8ヶ国12種類、16冊の辞書を一枚のCD-ROMに収録。500万語の相互対訳ができる。

#### イ) 海外ソフト

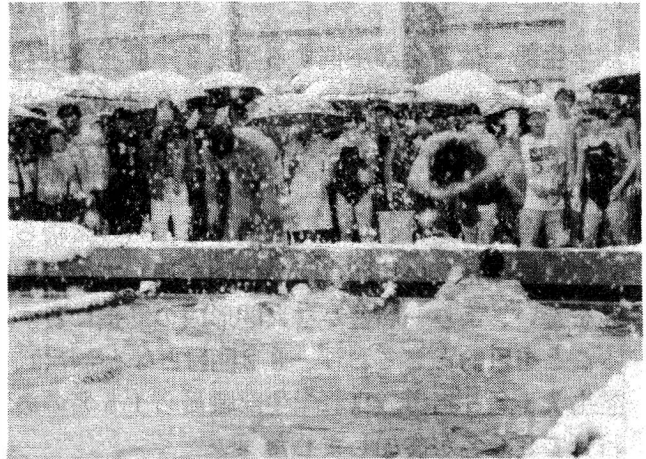
Books in Print plus	目録	米国で出版される既刊・新刊本の書誌情報。入手可能な図書約75万冊を収録。年6回データを追加。
Ulrich's plus	目録	全世界の定期刊行物約92,000種、不定期刊行物・年鑑類約46,000種の書誌情報。年4回データを追加。
DIALOG ON DISC ERIC	索引	米国教育省収集の教育学関連の雑誌論文、モノグラフ、レポート類の抄録・索引。1966年から現在まで。年4回データを追加。
Social Science Index	索引	社会科学関係の欧文の雑誌論文の索引。1983年から現在まで約17万件。年4回データを追加。



### 寒中水泳大会の実施

1月18日（土）、この日だけは暖冬も一休み…前日までの暖かさが信じられないような雪の中、平成3年度寒中水泳が行われました。この日を待っていたかのようにこの冬初めての本格的な降雪となり、プールは雪、雪、雪、大会開始時のプールサイドの気温1度、水温3.5度。雪はやむどころか、さらに激しく降り、水面には雪の膜ができるといった、大会にふさわしい天候となった。

午後2時、市民を混じえた約200人の観衆が見守るなか応援団吹奏楽部の伴奏で大学歌を合唱したあと、増田学生部長、香川体育会委員長の激励、市村水泳部主将の檄文をうけ、水泳部員によるリレーで寒中水泳大会の幕をあけました。続いて、各クラブの猛者がそれぞれ趣向を凝らしたスタイルで登場し、寒さを吹き飛ばすかのよう



に約100名が次々とプールへ飛び込み、学友のさかんな声援が泳者をふるい立たせていました。最後に、水泳部部歌の大合唱で今年の寒中水泳は、近年にない盛り上りの中終了しました。

### 外国人留学生との懇談会開催

—小黒学長を囲んで—

毎年恒例となっている外国人留学生等と本学教職員との懇談会が12月16日（月）富山市内の高志会館で開催しました。

今回は、中国、マレーシア、台湾など10ヶ国の外国人留学生等90名と小黒学長、増田学生部長、部局長、留学生の指導教官等70名、合わせて過去最高の160名が出席しました。

小黒学長の開会の挨拶、大谷教養部長の乾杯の

後、留学生たちは、小黒学長や部局長などと楽しく歓談したり、お国自慢の歌を披露したり、飛入りで日本の歌を唱うなどして親睦と交流を深め、終始にぎやかな懇談会となりました。

最後に、留学生を代表して工学研究科1年の韓玲さんの御礼の言葉に続き、増田学生部長の閉会の挨拶で懇談会を終了しました。



## 平成3年度在来生合宿研修（スキー講習）を実施

学生部・体育会が主催する平成3年度在来生合宿研修（スキー講習）を、去る1月6日（月）から10日（金）まで、志賀高原ブナ平スキー場のホテル「清広荘」で実施しました。

この合宿研修は、スキーを通して自然の素晴らしさや規律正しい集団生活の体験を通しての協調性を養い、より一層豊かな人間形成の助長に資することを目的としており、32回目となる今年は、学生71名、指導教官、学生部職員ら15名のあわせて86名が参加しました。

スキー講習では、各自のレベルにあわせて班

分けが行われ、日中は各指導教官からみっちりの実技指導を受け、夕食後は、映写会、討論会を通してスキー理論を学び、技術の修得に励み、講習が終わる頃には目を見張るほどの上達がみられました。

最終日には、ポールを立ててのタイムレースでこれまでの練習の成果を披露し、閉講式を終え無事研修を終了しました。

最後に、今年も多大な成果をあげ、無事終了できたことは、御指導いただいた諸先生方、体育会事務局諸君のおかげと、深く感謝いたします。



## 平成3年度後期授業料免除について

平成3年度後期授業料免除者の選考が、11月11日に開催された授業料等減免選考委員会でわれ、右表のとおり決定しました。

なお、授業料免除及び奨学金を希望するうえで、たずねたいことがあれば、厚生課奨学係又は各学部等の学務係（経済学部、教養部は学生係）へ相談してください。

区分	出願者	免除許可者	不許可者
学部	471 <sup>人</sup>	461 (145) <sup>人</sup>	10 <sup>人</sup>
大学院	33	33 (10)	0
計	504	494 (155)	10

( ) は、半額免除許可者で内数

## 平成3年度富山大学学位記授与式について

[旧卒業式]

平成3年度富山大学学位記授与式が下記により挙行されますので、卒業生及び修了生は出席して下さい。

日 時 平成4年3月25日(水) 10時30分  
場 所 富山市公会堂  
式次第 (1)開式の辞  
(2)学位記授与  
(3)学長告辞  
(4)閉式の辞

(補足) 学園ニュース(No74)でお知らせしたとおり、「学士」の称号が学位に改められたことに伴い従来の卒業式を学位記授与式に変更した。

## 保健管理センターだより

### 学生生活の中から(その3)

～現実の自己を知る機会をもとう～

助教授(カウンセラー) 高尾 テルノ

人間誰もが、大なり小なり内的外的になんらかの形で欲求あるいは欲望を持っている。その欲求や、欲望から離れることは容易なことではない。

現在の私たちは、「欲求、欲望」と「叶えること、叶えられること」が一つになった時代を生きている。欲求や欲望は全て満たされたり、叶えられるものではないにもかかわらず、その出来ないことを他人のせい、社会のせいにしてしまって、それらが満たされないために苦しむ。しかしこの欲望こそ己れを知らせてくれる(自分こそ、欲望しかない人間であることに気付かせてくれる)大事な要素であり、苦しみ悩むことは、自己を知るよい機会ではなからうか。

今回は、学生達が大学生活の中で、何に満足し、何に不満を感じ、悩みとなっているかを、生活意識調査結果or学生相談内容を基に記述してみたいと思います。

#### ① 調査対象

富山大学 1年生

平成2年度 901名(男子 629名 女子 272名)

平成元年度 1,058名(男子 627名 女子 431名)  
昭和63年度 1,475名(男子 923名 女子 552名)

#### ② 実施期日

各年度共、入学して半年後の9～10月に実施

#### ③ 調査方法

体育関連科目担当教官の方々のご協力を得て、無記名で実施

#### ④ 調査結果or相談内容から

(ア)学生達は、大学生活にどの程度満足しているのでしょうか。

○現在の大学生活にどの程度満足していますか。

表1 満足度

	H 2	H 1	S 63
1. 割合充実した大学生活を送っている	16.8	16.7	18.1
2. こんなものだろうと思って大学生活を送っている	61.9	57.7	57.0
3. なんのために大学生活を送っているのかわからない不満だ	16.0	19.0	16.7
4. 大学をやめようと思っている	1.6	1.7	2.0
5. 大学生活は意味がない そういうことは考えたことがない	3.7	4.9	6.2

保健管理センターだより

表1から 平成元年、昭和63年に比べて、平成2年の項目1、2の満足度が約79%とやや増加し、項目3、4の不満がやや減少している。

○現在の大学生活で一番満足に感じていることはどんなことですか。

表2 満足内容

	1位	2位	3位	4位	5位
H2	時間的	友人関係	クラブ活動	アルバイト 経済的	寮 下宿生活
H1	〃	〃	〃	下宿生活	経済的
S63	友人関係	時間的	〃	〃	通学の便

○現在の大学生活で一番不満に感じていることはどんなことですか。

表3 不満内容

	1位	2位	3位	4位	5位
H2	授業内容	成績 単位制度	雰囲気	時間的	通学の便
H1	〃	〃	〃	〃	〃
S63	成績 単位制度	授業内容	時間的	雰囲気	〃

(イ)表2から、一番満足に感じている事柄は、時間的に余裕があり、自由に時間を使うことが出来ることである。また友人関係が出来、クラブ・サークル活動によって得るものが多いという喜びである。

(ウ)逆に不満を感じている事柄は(表3)授業内容、成績・単位制度そして大学の雰囲気が悪い～が上位を占めている。

(エ)学生の相談内容には種々あるが、修学上の相談の中には、不本意入学のため学生生活に不適應を起し、転学、転部、転学科などの進路変更、更に不登校、怠学、休学、留年、退学など。また、勉学、学生生活全体への意欲が乏しい Student Apathy。親子分離のできない、自主性、主体性の喪失した学生の相談(幼稚化現象)。進路を中心としての進学・就職問題(大人になりたがらない、社会に出た

がらない)。時間的に余裕がありすぎて、どの様に使えばよいか苦しむ、学生の相談etcもある。

(オ)学生達は、特にどんなことを考慮に入れて、富山大学を選んだのであろうか。

○特にどんなことを考慮に入れてこの大学を選びましたか(複数)

表4 (全体) (%)

	H2	H1	S63
1. 学業成績	58.8	59.2	61.2
2. 性格・適性など	6.0	8.3	8.4
3. 特技・クラブ活動など	1.2	1.5	1.0
4. 先生の勧め	15.6	9.3	8.5
5. 親の勧め	8.9	10.7	10.2
6. 友人・兄弟～	1.0	1.1	1.1
7. 通学の便を考えて	9.8	14.2	14.7
8. 経済的側面から	34.8	27.6	29.8
9. 将来の職業(就職)のことを考えて	20.4	20.3	23.0
10. ただなんとなく入れる圈内にいたから(新テスト)	35.2	35.2	30.7
11. その他	8.3	12.6	11.4

表5 (学部別)

	1位	2位	3位	4位	5位
人文 学部	学業の 成績	経済的側面	ただなんとなく	通学の便	親の 勧め
教育 学部	〃	将来～ 就職	経済的側面	ただなんとなく	〃
経済 学部	〃	ただなんとなく	〃	先生の 勧め	将来～ 就職
理学部	〃	〃	先生の 勧め	経済的側面	〃
工学部	〃	〃	経済的側面	将来～ 就職	先生の 勧め

表4から1位学業の成績、2位ただなんとなく新テストの成績で合格出来る圈内にいたから(自分の希望、いきたい大学ではなく、いける大学を

選ぶ) 3位経済的面からといった結果が表われ、特に平成2年度では、先生の勧めが増えている。

学部別(表5)に見ると、学部間は類似しているが、人文・教育学部は、親の勧めが多く、他学部は、先生の勧めが多い。人文・教育学部には女子学生が多く、将来の就職等を考えて親の勧めも含め地元志向(富山県出身者、平成2年度では、人文42.4%、教育57.9%)かと推察される。

(カ)現在できればどんな大学生活を送りたいと思っているのだろうか。

○現在できればどんな大学生活を送りたいと思っていますか。

表6 (全体) (%)

	H 2	H 1	S 63
1. 広く知識や教養を身につけたい	35.4	41.2	41.1
2. 人生・社会・思想・自己について～	11.9	12.0	11.8
3. 将来のための学力をつけたい	15.8	13.9	13.6
4. クラブ・特技など～	17.0	16.3	14.3
5. 考えたことがない	14.9	12.8	14.3
6. その他	5.0	3.7	4.9

表7 (学部別)

	1 位	2 位	3 位
人 文 学 部	教養・知識	将来～学力	人生・社会について
教 育 学 部	〃	ク ラ ブ 特 技	将来～学力
経 済 学 部	〃	〃	考えたことがない
理 学 学 部	〃	人生・社会について	将来～学力
工 学 学 部	〃	考えたことがない	人生・社会について

表6、表7から、学生達は広く知識や教養を身につけたい、クラブに加入して特技を身につけたい、また、将来のための学力をつけたいと答えている。約15%(H2)の考えたことがないと答えた学生は、現在の大学生活に満足しているのか、ただなんとなく、みんなが行くからという無目的に大学に進み、こんなものだろうと考え、「今何をしたいか」「どんな生活を送りたいか」と質問されても「別に～」といった考え方なのであろうか。もしそうであるとすれば、専門移行期or卒業期が危惧される。

学生達の「大学生活について」の感想文の中には

- ・親元を離れての下宿生活に憧れ、始めは何事も新しくウキウキ気分であったが(少しは不安もあった)月日が経つにつれ、「親の有難さ」「家族のお陰」そして「お金の大切さ」がわかった。
- ・成人式に参加して同級生と久しぶりに語り合った際にすでに就職している人、結婚している人の社会人としての自信、苦労話を聞いたり見たりして、今まで、大学に進学するのは「普通」だと思っていたが……自分の考えの甘さに気付いたetc、下宿生活、クラブ・サークル活動、アルバイトを通して自己を顧みるor自己に気付く機会をもっている学生もいる。

大学の1年生は、希望と期待の時代。2年生は、焦りと不安の時代。3年生は、慣れと諦めの時代。4年生は、安定と飛躍の時代とするならば、日々を安閑と過ごすことなく、また苦しみ、悩みから逃避することなく、今から小さな事でもよい、目標を持って、卒業期に慌てることのないように、計画的に物事を進めてほしいものである。

## キャンパスの草本誌 (10)

### ミミナグサ (Cerastium holosteoides Fries

var. hallaisanense (Nakai) Mizushima) ナデシコ科

—本学草創のころを今に伝える—

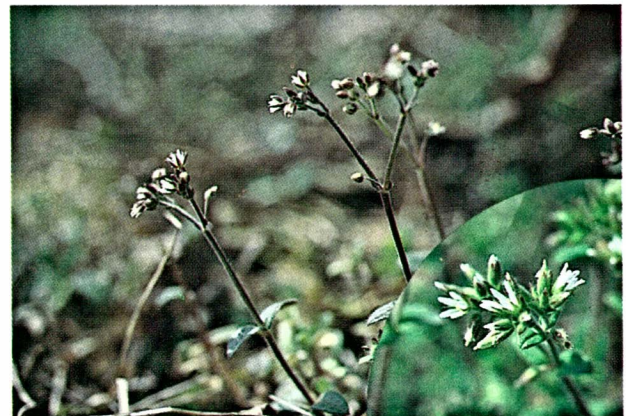
ミミナグサは耳菜草と書く。細かい毛が生えた小さな葉を、ネズミの耳に例えたのである。葉は食用の意味で、古くは山菜として親しまれていたが、今は数が少なくほとんど見られなくなった。これに対して威勢のいいのがヨーロッパ原産のオランダミミナグサである。大正期の帰化であるが、猛烈な勢いで日本全土を制覇した。

早春の草は一般に草丈が低く、また活動期間が短い。高く伸びる草が活動を始める前に、さっさと花を咲かせて実を結んで一生を終えるのである。ミミナグサやオランダミミナグサも、このタイプである。いずれも2年草で高さ20cm内外。ミミナグサの花はまばらに集まり、花柄はがく片よりも長い。オランダミミナグサの花は密に集まり、花柄はがく片よりも短いか、同じ長さである。また、ミミナグサの葉や茎は、全体に細くてきゃしゃで毛や腺毛が少ない。これに対してオランダミミナグサの茎は太くて直立し、全体に淡黄色の毛や腺毛が密生する。ことに茎の上部やがく片は腺毛の液でよくねばる。オランダミミナグサは人間が攪乱する裸地を好み、道端や街路樹の下などで群生しているが、在来のミミナグサは、これに押され

て山麓などの道端で、まさに絶滅の危機にひんしている。

本学キャンパスも例外ではなく、オランダミミナグサが全盛を極めている。しかし、珍しいことに本部前の草地にミミナグサが生育している。人の介在が少なく土地が安定しているためで、それがオランダミミナグサの侵入を許さないのである。本部前のミミナグサは本学草創期のころの自然相を今に伝える貴重な存在である。

教育学部教授 <sup>なが い しん りゅう</sup> 長 井 真 隆



ミミナグサとオランダミミナグサ (円内)

## ▽▲▽▲▽ 学園ニュース編集委員 ▼▲▼▲▼

学生部長 増田 信彦  
人文学部 河村 貞枝  
" 大工原 ちなみ  
教育学部 呉 羽 長  
" 原田 嘉昭  
経済学部 伊藤 格夫  
" 松井 隆幸

理学部 広岡 公夫  
" 鳴橋 直弘  
工学部 島崎 長一郎  
" 杉本 益規  
教養部 高安 和子  
" 山本 孝一